

「令和元年度を振り返って」

青森県県土整備部河川砂防課長 田中 克人

河川砂防課長になり、2年が過ぎようとしています。今年度は1年目と比べ、少し慣れて楽になるのではと思っていましたが、相変わらず忙しい1年でした。

後々、この河川砂防課長時代の2年間で、これまでの公務員生活の中で最もプレッシャーを感じ、緊張感を持って過ごした期間だったと思える様な気がします。

さて、この1年間、様々なことがありましたが、その中で印象に残っている出来事について振り返ってみたいと思います。

1. 十和田湖の渇水について

昨年の4～9月は県内全域で降水量が少なく、この間の休屋地点の総降水量は、過去5か年平均の6割弱でした。（4～9月の過去5か年平均総降水量約1,000mmに対し、昨年は約570mmです。）

このため、十和田湖の水位は例年のペースを上回るスピードで下がり続け、9月22日には、平成になって3番目に低い水位まで低下しました。この影響で、子ノ口制水門から奥入瀬溪流へ本来5.2m³/S放流すべきところを、9月22日には、その5%にも満たない0.22m³/Sの放流しかできない状況となりました。

下の写真は、7月16日5.2m³/S放流時と9月11日0.24m³/S放流時の銚子大滝の写真です。0.24m³/S放流時には銚子大滝の半分ほどがほとんど流れのない状況となってしまいました。

このことは9月20日のデーリー東北でも取り上げられ、『銚子大滝 水量半分以下に』、『奥入瀬の名瀑 迫力不足』との記事が載り、観光面への影響について危惧する意見も掲載されました。記事のように、この時期に奥入瀬溪流を訪れた観光客の中には、がっかりされた方もいたかもしれません。



(2019/7/16 子ノ口制水門放流量5.2m³/S)



(2019/9/11 子ノ口制水門放流量0.24m³/S)

目次:

「令和元年度を振り返って」	P1
令和元年度活動報告 堤川を愛する会	P3
令和元年度活動報告 ジョイリバーおいらせ	P4
令和元年度活動報告 親しめる川づくりサークル	P5
令和元年度活動報告 サークル母なる川	P6
総会・講演会 源流の地標柱建立活動	P7
「水辺で乾杯」 水辺関心創造アクション	P8
河川技術講演会 薦川清掃活動	P10
駒込ダム本体工事見学会 イワナの産卵床づくり	P11
日本海沿岸津波講演会 令和2年度総会のご案内	P12

ハイライト:

- ・奥入瀬の名瀑 迫力不足 (P2)
- ・最後の植樹(P4)
- ・2年ぶりの乾杯！(P8)
- ・今年も発見された卵(P11)

この子ノ口制水門からの放流量の減少についてですが、もちろん十和田湖の水位低下が第一の原因ですが、その他に、十和田湖から子ノ口制水門に至る溪流の一部区間に土砂が堆積しており、これも影響しているのではないかと考えています。

今年度の状況を踏まえ、奥入瀬溪流の素晴らしい景観を維持・保全するためにも、今後、現地調査を行い、堆積土砂の撤去により少しでも放流量を改善できるかどうか検討したいと考えています。

2. 災害復旧技術専門家派遣制度の活用について

この制度は、災害復旧業務に長年携わり、災害の制度を熟知した、いわゆる災害復旧技術専門家を災害現場に派遣し、地方公共団体が行う災害復旧事業に対し支援・助言する制度で、平成15年に創設されましたが、本県ではこれまでこの制度を活用したことがありませんでした。

昨年10月の台風第19号では、宮城県や福島県など東北地方を中心に甚大な被害が発生しましたが、幸いにも本県の被害は少なく、被災箇所20箇所、被害額2億円弱と極めて小規模なものでした。

今回もこの制度を活用することはないものと考えていたところ、県OBで災害復旧技術専門家でもある工藤繁明氏から、「東北地方でこの制度を活用していないのは青森県だけ。被害の規模が小さくても一度活用してみてもどうか？」との助言があり、11月1日に階上町及び三八地域県民局が管理する河川

川の災害現場に専門家3名（国土交通省OB佐藤清氏、県OB工藤繁明氏及び小田桐勝則氏）を派遣してもらい、復旧工法等のアドバイスをいただきました。このことが意外にも反響が大きく、東奥日報に掲載されたほか、NHK及びRABでも取り上げられました。

また、実際の災害査定では、このアドバイスのおかげでスムーズに査定が進んだとのことで、専門家3名の皆様には改めて感謝申し上げます。

現在、市町村では技術職員の不足が深刻化し、特に小規模な町村では、建設課に一人も技術職員が配置されず、災害申請を躊躇することもあると聞いています。今回の報道により、同制度が広く周知され、県内の多くの市町村が活用することを願っています。

最後になりますが、この2年間、河川砂防課長として「あおもりの川を愛する会」に関わらせていただき、会員の皆様には大変お世話になりました。至らない点があったことをお詫びするとともに、本会が益々発展することを祈念いたしまして巻頭のことばとさせていただきます。



(2019/9/20 デーリー東北)



(2019/11/2 東奥日報)

●堤川を愛する会 令和元年度活動報告
サークルリーダー 東郷 克彦

令和元年度の活動といたしましては、毎年の恒例行事となりました、全国一斉社会実験である水辺関心創造アクション「水辺で乾杯2019」堤川版の実施を今年は7月7日が日曜日ということもあり、5日金曜日に実施いたしました。徐々にではありますが、毎年参加人数も増えてきており、より参加者を増やすべく認知活動を充実したいと考えております。

その後、7月は標柱「川内川（福浦川）源流域の地」の建立、8月4日日曜日には、河川技術講演会（於：松の館）開催・参加、秋には、9月の鳶川清掃活動の参加、10月のイワナの人口産卵床の設置、11月には深浦町（於：田野沢福祉センター）で津波講演会の参加など、有意義な活動を行いました。「川と遊び」の一環としましては、「堤川河口でのハゼ釣り」他、なにかしら身近に川と付き合える遊びを検討していきたいと考えております。

令和2年は、年明け早々からのコロナショックで、国内・国外からの人の流れが停滞するという状況ですが、青森の川の魅力を探求すべく、ますますコミュニケーションの場・機会を設け、メンバー並び関係者と楽しく活動を進めていく所存ですので、よろしく願いいたします。



●ジョイリバーおいらせ 令和元年度活動報告
サークルリーダー 中野渡 悟

毎年、おいらせ知（とも）の会と協同で植樹と夏期活動（川下り・奥入瀬溪流歩き等）を実施してまいりましたが、「おいらせ知の会」も設立20周年を契機として発展的解散を決めたため、今年度で協同活動は最後になります。令和元年度の活動は令和元年6月29日（土）に植樹を30名の参加者で実施しました。植樹場所も今回で借地期限を迎える事から今回で最後となります。

夏期活動については、昨年奥入瀬溪流の半分をガイドと供に歩いたので、今年は残り半分を19名の参加者で踏破しました。ガイドさんのお話は植物から動物も含めた奥入瀬の自然環境の話を詳しく説明してもらい、新たな発見がたくさんあり非常に有意義な機会をもつ事が出来ました。皆様も奥入瀬溪流を散策する時はボランティアガイドさんの活用される事をおすすめします。



●親しめる川づくりサークル 令和元年度活動報告
サークルリーダー 南 直之進

令和元年7月20日(土)に岩木川水辺プラザにおいて、昨年同様中弘南黒建設協会と共催で「川でふれあい建設フェア2019」を開催しました。

自然に触れ合う機会が少ない子供たちが、保護者と共に川と触れあえる機会を設けるための魚のつかみ取り競争と、建設業を身近に感じてもらうために、ものづくり体験コーナー、建設機械の展示と・試乗体験を行いました。また、今回もゲームコーナーを設けスコップDEビンゴ・びったしカンカン・輪投げでゲッツなどを行いましたが、子供たちが楽しみながら建設業を体験できたと思います。

当日は多くの家族連れが訪れ、用意した500匹のニジマスが悪戦苦闘しながら、歓声を上げて楽しそうに追いかけたり、高所作業車やタイヤショベルなどの建設機械も人気があり、特に高所作業車は長蛇の列となり、ものづくり体験コーナーは、木工体験・畳や和紙でのコースターづくり・スプレー缶でアート作成、コテを使って壁塗り等親子で真剣に取り組んでました。

また魚の串焼き・巨大アップルパイの振る舞いなども大好評でした。



● サークル 「母なる川」 令和元年度活動報告
サークルリーダー 和島 隆志

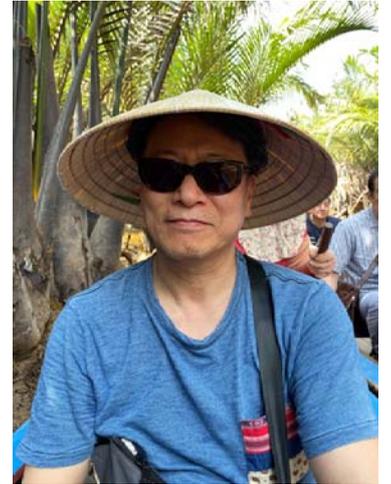
サークル「母なる川」では2019年度の活動として、「サイゴン川」と「メコン川（下流部）」の視察を実施しました。

* 「サイゴン川」

サイゴン川はインドシナ半島の東南部を流れる川で、カンボジアに端を発し、ベトナムのホーチミン市内を大きく蛇行して南シナ海に注ぐ、長さ約230kmの河川です。

もともと南ベトナムの首都だったサイゴン。ベトナム戦争を経て名称がホーチミン市に変わりましたが、流れる川は現在でも、もともとの名称がそのまま使用されています。

沿岸には大型ショッピングセンターや高級マンション等が立ち並び、高層ビルの建設ラッシュで、ベトナムの発展を象徴していますが、一方、貧富の差は大きくなるばかりで、土地を買えない人々が不法に水上に家を建てるといった問題も起こっています。



* 「メコン川（下流部）」

メコン川はチベット高原に源を発し、中国、ミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムを流れ南シナ海に注ぐ長さ約4,200kmの河川です。

流域に恩恵をもたらすアジア有数の大河ですが、90年代に入り上流部に多くのダムが建設され、河川水運を目的とした地形改変や過剰な漁獲等が行われ、それらが要因となり中・下流域住民の生活にも水位低下による川の閉塞、自然のサイクルを無視したダム放水による一時的な水量の増加や水質汚濁等、重大な悪影響を与えていると言われています。

また、環境破壊により、メコンイルカやマナティーを含む、多くの種が絶滅の危機にさらされています。

数か国にもまたがり流れる大河故に、上流部の国の思惑に翻弄される下流域諸国の人々という構図が顕著に表れています。



●令和元年度 総会・講演会
あおもりの川を愛する会 事務局

令和元年5月18日（土）令和元年度総会をアラスカ会館に於いて開催しました。当日は日本河川協会の大西亘氏にご挨拶を頂きました。

総会終了後、声楽器楽混成団体「弘前バッハアンサンブル」による演奏会を行いました。
（参加者：40名）



「弘前バッハアンサンブル」演奏



大西亘氏挨拶



佐々木会長挨拶

●令和元年度 源流の地標柱建立活動
あおもりの川を愛する会 事務局

川内川源流探訪会

令和元年7月18日むつ市川内町福浦山に流れる川内川の源流の地に標柱を建立しました。

毎年1ヶ所、源流の地に標柱を建立しており、今年で14本目となりました。（参加者：13名）

<大畑川、野辺地川、蟹田川、田名部川、土淵川、天田内川、浅水川、鳴沢川、十川、松館川、熊沢川、浅瀬石川、大童子川>



●令和元年度「水辺で乾杯」水辺関心創造アクション
あもりの川を愛する会 事務局

全国一斉社会実験として水辺関心創造アクションが令和元年7月5日午後7時7分に行われました。各自ドリンクを準備して貰い、それぞれの場所（堤川、馬淵川、土淵川、旧十川、田名部川、官庁通りせせらぎ水路）に集まって頂き川のほとりで乾杯致しました。（153名）



堤川
参加者：45名

馬淵川
参加者：14名



土淵川
参加者：30名



●令和元年度「水辺で乾杯」水辺関心創造アクション
あもりの川を愛する会 事務局

旧十川
参加者：22名



田名部川
参加者：29名



官庁通りせせらぎ水路
参加者：13名

●令和元年度 河川技術講演会
あおもりの川を愛する会 事務局

令和元年8月4日つがる市生涯学習交流センターに於いて「河川技術講演会」を開催しました。青森河川文化講演会は平成10年から開催され今回で21回目となります。日本水フォーラム代表理事竹村公太郎氏が演題「日本文化とエネルギー～水力発電の底力」・国土交通省東北地方整備局長佐藤克英氏が演題「東北の河川を取り巻く最近の課題」で行いました。おわりに三村知事よりご挨拶を頂きました。（参加者224名）



講師 佐藤克英氏



つがる市福島市長挨拶



講師 竹村公太郎氏

●令和元年度 蔦川（つたがわ）清掃活動
あおもりの川を愛する会 事務局

<開催日：令和元年9月4日 >

第17回目となります蔦川（旧十和田湖町）の清掃活動を行いました。作業前に分別袋を渡し会員ほか71名参加され約1.5kmごみ拾いを行いました。

当会としまして年1回の清掃・美化活動ですが、今後も継続し蔦川溪流に来て頂いた人に綺麗な川を見て頂きたいと考えております。



●駒込ダム本体工事見学会 あおもりの川を愛する会 事務局

令和元年10月10日駒込ダム建設所のご協力を頂き、「駒込ダム本体工事見学会」を行ないました。調査や工事用道路整備など進み、工事は発注され着工の準備を進めているところでした。（参加者16名）



●イワナの産卵床づくり あおもりの川を愛する会 事務局

令和元年10月23日蔦川の小溪流に今年で13回目になります「イワナの人工産卵床」を1ヶ所設置しました。一ヶ月後、設置場所へ確認に行きましたところ、卵が確認できました。（参加者9名）



確認された卵

●津波講演会

あおもりの川を愛する会 事務局

令和元年11月2日田野沢福祉センター（深浦町）に於いて津波講演会を青森県と共催で開催しました。（参加者 134名）



深浦町吉田町長挨拶

●あおもりの川を愛する会 事務局より

「あおもりの川を愛する会」は23年目を迎えることになりました。会員数は現在208名となっています。今年度も、会員の協力のもとさまざまな活動を行なう事が出来ました。これからの会の活性化が図れるよう、頑張っていきたいと思えます。ご協力よろしくお願いたします。

あおもりの川を愛する会

【事務局】 〒030-0111
青森県青森市荒川字柴田102番地1

TEL: 017-729-0922

FAX: 017-739-3561

E-mail: kon-h@nishidagumi.co.jp